

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800750		
法人名	有限会社 くろべ		
事業所名	グループホーム みそのむら		
所在地	三重県伊勢市御園町高向481		
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 20 日	評価結果市町提出日	平成26年2月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigvoCd=2472800750-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25年 12 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームも9年目が過ぎ、入所当時は自立していたご利用者も重度化し、入院又は看取りが続いた。その様な中、職員も幅広い知識を得る為、積極的に研修へ参加したり他職種との連携を深めお一人お一人を支えている。生活の中では職員が行う行事の他に外部からのサービス等も取り入れることによって、穏やかな生活の中にも楽しみのある日常を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三重県で一番最初に「外部評価の緩和承認」を受けられ、昨年の外部評価は免除されたが、「毎年外部の目でやってることを見てほしい」との代表の感想を聞き、地域や行政との連携はもちろん、事業所内の運営にも自信を感じる。利用者の高齢化に伴い2人の看取りを経験し、職員も「死」=「自然」なことであると受け入れるほど成長した。自分の思っていること、考えていることが言いやすい雰囲気であり、やってみたいことを形に表しやすい事業所であると、やる気満々に若い職員は話してくれた。食事時や食事後のお手伝いのときの利用者の顔は穏やかで、職員との仲も良く、笑顔の多い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内にも運営理念を掲げ、毎朝、申し送りの後、皆で唱和している。各利用者のケアプランと共に、日常生活支援にも反映させている。	法人全体の理念とグループホームの理念、「笑顔を繋ぐ」を毎朝職員みんなで唱和している。利用者との会話は「笑顔」が原点であり、朝の挨拶から笑顔が始まっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の大きな行事・記念式典等に地域の方も多数参加されたり、月行事に地域の園児達を招き遊戯を披露頂いたり、運動会に招待されたりと、地道に交流を続けている。	地域の行事への参加や、事業所の行事に地域の方の参加もあり、地域との付き合いも順調である。地域の商店街の「軽トラ市」を、「高齢者のホコテン」にならないかの模索もしている。	事業所の地域貢献も兼ね、利用者による「散歩を兼ねた地域の子どもの見守り」を検討している。非常に良いことであり、ぜひ実現してほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所に於いて認知症サポーター養成講座を主催・実行したりして、地域の人々に認知症に対する理解や支援の方法が少しでも広がる様に努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月主催の運営推進会議では、利用者へのサービスの報告、家族や地域の方の意見も聴きながら、話し合っている。防災に関しても、地域の協力を得て、ハザードマップの制作中である。	昨年度は「外部評価緩和承認」されており、外部評価はなかったが運営推進会議は6回開催されている。行政はじめ医師や地域関係者、利用者家族と出席者も多く、貴重な意見交換の場になっている。	出席されている家族の意見の中には、利用者個人がらみの話になることが多く、事業所として運営推進会議とは別に「家族相談会」的なものを検討している。ぜひ前向きに検討していただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは日頃から連絡を密にし、情報交換も行っている。毎月、定期的に介護相談員の来訪もある。	事業所の大きな行事には市長の出席もあるし、市へは代表はじめ統括長、管理者も機会ある毎に出かけており、連携はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止法、身体拘束の禁止規定等含め、全体勉強会で学び、職員各自も法令遵守の意識を持って介護の実践をしている。	23年度のステップアップに書かれた「外垣根の門扉の電子ロック」は運営推進会議で検討された結果、建物の玄関は無施錠であるので、「外垣根の扉がロックされているから安心」という家族の強い意見で、現状のままになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、折に触れ全体勉強会で学んでおり、施設内に於いてもコンプライアンスが守られているか注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の勉強会にて成年後見人制度についても学び、運営推進会議に成年後見人の方が参加し、意見交換等も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時に於いて、代表者・管理者は、家族等の疑問にも耳を傾け、十分な説明と話し合いの下で、理解・納得が頂ける様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月に行われる運営推進会議にて意見交換を行ったり、希望・要望に関しても運営に反映できるよう努力している。又、意見箱を設置したり、アンケートも実施している。	玄関にかわいい感じの「意見箱」があるが意見は入らず、運営推進会議の時の意見交換に期待している。家族への近況報告は、最近では写真入のメールが多くなってきており、電子媒体の時代を感じている。ホームページの見直しも考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会・会議の中で、職員の意見や提案等も聞く機会を設け、反映に努めている。	5つの委員会と11の係りを設け、職員はどれか1つ或いは複数を担当することになる。委員会・係りとも活動予算が付き、代表に直結しているので今後の活動が期待される。来年1月からスタートである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度始めに「能力評価シート」や代表から全職員にアンケートも実施している。その内容や研修報告書等を考慮し給与の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設の内外を問わず、研修等には積極的に参加を促している。又、一年間の職員研修プログラムを実施している。職員の技術向上に繋がるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会、市の介護保険サービス事業者連絡会等に参加し、同業者間の情報交換を行ったり、現場研修の受け入れ、施設見学等を通じて、サービスの向上に繋がる様取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の要望や不安等、訴えやすい環境を作り、職員が傾聴姿勢で話しを聞く等、要望に答えている。又、ご本人の生活歴を尋ねながら忘れかけたご本人の姿を取り戻せる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御利用者の生活歴を尋ねながら、その間に感じたご家族の気持ちや現在に至るまでのご苦労等にも耳を傾けた上でご家族の要望や必要とする支援を尋ねるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医師往診・訪問看護・訪問歯科医等の医療サービスを初め、整骨院通院等その方に必要と思われるサービスの情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に近隣のスーパーへおやつやの買い物に行ったり、食事の味見、洗濯物を一緒に畳んで頂く、野菜を隣接している施設と一緒に届ける等共同生活している関係を築いている。ご利用者の「まだ出来る事」へのアプローチを忘れず見守り・声掛けをしながら共に生活し支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会した際に、利用者と楽しい時間を過ごせるよう、環境作りに配慮したり、ご家族の言葉も傾聴し、施設側の意見も伝え共に利用者を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃から利用者の要望を傾聴し、外出行事でその場に行っている。必要な時はご家族に同行の協力をして頂いている。	友達には事業所の行事をPRし、来てもらえるよう勧めたり、元働いていた職場を訪問し、元部下との交流を深めたりしている。また家に帰りたい、墓参りしたい等についても、シルバー人材を利用するなどして対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、仲の良し悪しがあるので、席の場所に配慮したり、レクリエーション等を通して環境を変えたり、職員が仲介に入り、コミュニケーションが自然に行われる様、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一部ではあるが、退所した利用者との交流を図っている。近隣の場合は、仲の良かった利用者同伴で会いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己主張出来る利用者には、家族と相談のうえ居室の模様替えをしている。困難な利用者には職員間や家族と相談し、生活の向上に努めている。	レクリエーションや入浴の穏やかな雰囲気の方に聞き出したり、家族の面会時には写真を見てもらったり、雑談の中から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮しについて利用者本人や家族の話を傾聴し、生活環境や食生活等、個別のサービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを把握して、心身状態や介助の仕方等、職員間で話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングで、変更点や改善点を導き出し、本人や家族または、必要な関係者と話し合い、その人らしい生活が送れる様、介護計画を作成している。	毎日のケアカンファレンスを行い、日常の本人・家族の意見や、看護師・医師の意見を反映させ、月1回の定期モニタリングを経て、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の定期的な会議や、ケアへの気づき・アイデアの情報等、朝の申し送り時に話し合い実践、それを介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の状態や家族の状況に配慮し、その時のニーズに応じた支援を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の必要に応じて整骨院へ通院したり、2週間に1度のペースで整骨院院長による健康体操を行っている。年に数回外出支援として、外出先を利用者に聞き必要に応じて個別に外出支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、主治医の回診があり、特変時には24時間対応して下さる。必要に応じて主治医への相談後、紹介にて皮膚科や整形外科、日赤HP等専門医の受診も受けている。	利用者全員が事業所の協力医であり、2週間毎の往診を受けている。また、歯科医・皮膚科の先生の往診もある。隣接の整骨医によるマッサージや健康体操も受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日を訪問看護の日として、週に3度以上の訪問看護師巡回を受けている為日常の小さな変化等も看護師に相談指導を得て対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や家人を通じて、情報を得ている。入院時は、管理者や主任が入院先へ見舞い、家人より状況や相談事などを聞き取り、主治医へ報告する様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常支援しているスタッフからの情報を収集すると共に、早い段階から、主治医を中心とし、本人・家人・スタッフによるカンファレンスを行い、本人・家人等の意向に添える介護が出来る様にスタッフ全体で取り組んでいる。	ここ1年で2件の看取りを経験した。早い段階から医師を中心に家族・職員一体となって取り組み、特段のトラブルもなく送ることが出来た。この経験で職員も「死は自然のもの」として受け入れることが出来、家族との一体感とともに達成感も得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが3年以内に1度AEDを含む普通救命講習を受講し、急変時の対応を学び、又年3回以上実施している避難訓練の場で応急処置法も訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回以上の避難訓練では、火災・夜間の火災・地震・津波などを想定し利用者を含め実施している。又3ヶ月に一度、地域同業者での会議・意見交換会を行い、大地震や災害時の協力体制を築いている。	年3～4回運営推進会議を巻き込み、いろいろ条件を変え避難訓練をしており、備蓄も数日分ある。利用者と散歩しながら、近所の危険箇所をチェックし、タウンマップを作成中。	夜間想定訓練はしているが、実際に暗くなってからの訓練はしていない。ぜひ一度は体験されることをお勧めする。また避難訓練のDVDもあるので、参考にしてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人ひとりに担当スタッフを決め情報を収集し、利用者を人生の先輩として尊敬・尊重し対応している。必要に応じ個人的に対応する時間・場所にも配慮する様取り組んでいる。	人生の先輩として尊敬し支援しているが、堅苦しい敬語ではなく、仲良くなれるようなフレンドリーな言葉掛けになるようにしている。またトイレの引き戸にカーテンもつけ、見守りの必要な場合、引き戸は開けてもカーテンは閉める気遣いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分らしく生活が送れる様に、居室の雰囲気作りなど、家人の協力も得て行っている。レクリエーションや日常の会話の中等で利用者が望んでいる事を知るきっかけ作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前のお茶の時間や朝のラジオ体操、レクリエーションを行う際に、利用者の体調や気分にあった事が提供できるよう声掛けや働き掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援や介護が必要な利用者に対しては、起床時や入浴後に着用する衣類が、ワンパターンにならない様に、又季節感に応じた物をできるだけ本人に伺い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いたり、季節の旬の素材を取り入れる等の工夫をしている。家人からの差し入れの食材が有る際は紹介し伝えている。職員が同じテーブルで食事をする事で会話や好み希望が聞かれる。	何つくろうか？の話しかけから食事の準備が始まる。冷蔵庫の中にあるものと相談しながら担当職員の得意な料理になるので、ユニットごとに出来る料理は異なる。職員も同じものを一緒に食し、食後はエプロンをした利用者が洗い、拭いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の献立が野菜・肉・魚などバランス良く提供できるよう、食事ノートや検食記録を行っている。月に1度の体重測定を実施し体調変化を知る様にしている。食器拭きの手伝いを依頼が出来る利用者もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い実施している。自己で出来る利用者には自身で行ってもらっている。週に1度歯科衛生士が来設し口腔ケアを行い月に1度必要な利用者は歯科医師による治療を受けている。義歯は毎晩消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてリズムやパターンなどを理解し失敗のない安心出来る誘導をしている。	一人ひとりの排泄パターンやしぐさ等から手遅れにならないように誘導し、トイレでの自立支援に努めている。また便秘は認知症の症状にも影響するので、排便コントロールにも注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認・腹部のマッサージ(背腰)水分摂取・散歩・運動を促し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自立の方は好きな時に入って頂ける様配慮している。現在は介助が必要な方も多いので日を決めている事もあるが一対一でゆっくり入浴して頂くよう努めている。	自立の方も介助の必要な方もゆっくりと楽しんで入浴していただくことに努力しており、ゆず・菖蒲や入浴剤を入れたり、歌を歌うときもある。入浴拒否の人には、職員がいろいろ考え入浴してもらえよう、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	枕の高さや布団の硬さ、点灯した方が休める方には消灯を遅らす等、個々に調節し温度調節の確認をしながら安眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師に指導を受けながら薬について学んでいる。変化は細かく報告する中でその方に合った用法・用量になるように医療との連携が出来る様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の能力に着目し無理の無い様生活の中で役割を持って頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所には時間の許す限り出られる様支援している。又、職員の力だけでは限りがあるのでデリバリーサービス等外部支援も取り入れている。	天気の良い日は庭の花壇や近所の散歩をしているし、季節の花見や伊勢神宮、スペイン村等へも計画を立て出かけている。また個人的にも行きたいところを聞き出し、パンの買い物やお墓参りにも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金所持の可能な方はホームの買い物と一緒に出かけ買い物を楽しんで頂く。デリバリーサービスを使用し個々に買い物が出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望ある場合は電話をつなぎ自由に話して頂いたり家族・兄妹・手紙の受け渡しの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度の確認、カーテン・空気の入替え・音の大きさ・声のトーンに気を配り居心地の良い空間作りを心掛けている。	広い居間兼食堂は高級感漂う丸テーブルと四角のテーブルが置かれ、椅子に座っている利用者も「ゆったり」している。行事の写真や手づくり品の掲示は少なく、その”こざっぱり”感が居間全体の雰囲気合い「大人の空間」を感じさせる。畳コーナーのコタツに寝そべって本を読む利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにてそれぞれ仲の良い利用者様同士が安心出来る席に座って頂き、移動して頂ける様対応している。他ユニットの方とも気の合う方が居れば自由に交流されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時又はご利用途中でもご家族に協力を依頼し馴染みの物を使って頂ける様居室環境に配慮している。	居室にはベットとクローゼットが備え付けられており、使い慣れたテーブルや小型のタンスなど持ち込まれている。またテレビやラジオ、時計をはじめ本や趣味のお琴も置いている。壁には写真や手づくりの作品・色紙を飾り、自分の部屋作りをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の表記は出来るだけ分かりやすくしており居室の間違いが無い様写真や氏名を貼る等の工夫をしている。又、動線上に余分な物を置かない様努めている。		